



# 続 謙澄を巡る人々

その6

題字  
棚田看山

末松謙澄の父房澄、通称七右衛門。

『豊前人物志』(山崎有信著、昭和一四年)には、その功績が次のように書かれている。

「長峡川の流域三里余は、その激流により堤防や道路を破壊し、田畑や人家が浸水するなどその被害少なからず。七右衛門これを憂い、その対策にあたった。堤防の工事約一里余り、そのうち石垣を築きたるもの延長三百八十余間。また流域中、井堰の構築六カ所あり。そのうち上稗田字権田井堰の構造の如きは、下稗田・前田両村の耕地約百町歩を灌漑す。

郡内における水利の充分ならざるを憂慮し、水田灌漑の便利を計り各所のため池を構築したる。その主なものは左のごとし。

前田大池 稗田村にあり、面積八反歩、灌漑反別凡そ二十町歩。

住吉池 稗田村にあり、面積五反歩、灌漑反別凡そ四十町歩。

堂ヶ迫池

稗田村にあり、面積一町一反歩、灌漑反別五十町歩。

鳥井原池

樺市村下崎にあり、面積一反七町歩、灌漑反別五十町歩。

井口池

光国(苅田町)にあり、面積一町一反歩、灌漑反別六十町歩。

長迫池

長川(みやこ町)にあり、面積二町三反歩、灌漑反別百町歩。

加廊戸池

長川にあり、面積二町三反歩、灌漑反別百町歩。」

## 父 末松七右衛門 (その2)

「治山治水」という言葉がある。辞書を引けば「山を守り、氾濫を防ぎ、灌漑用水の確保を図ること」とある。昔も今も為政者の最大の務めといわれる。それにしても七右衛門は、よくぞこれまでやったものだ。

私は、七右衛門の足跡を辿ってみようと、七つの池を訪ねた。どの池も満々と水をたたえていた。



御所ヶ谷の住吉池  
(行橋市津積)